



芸術に触れるとか、スポーツに触れるとか、そういった文化、芸術、スポーツに豊かに触れながら生きていくということが大切になっていくのかと思います。そういった意味においても、これからの教育、一人ひとりの子どもの生きがい豊かにしていくという方向で考えていくことがすごく大切になるかと思っています。

**小学校低学年の詰め込み教育は、学びの意味や実感を奪う**

**大依** 次に、詰め込み型の教育は小学校低学年には早いと考えますが、小学生にはどのような教育が効果的とお考えでしょうか。

**柴田** まず、詰め込み型の教育についてはいろんな捉え方ができるわけですが、人間は、主体的に考えながら生きていくので、外から何かを詰め込んで教え込むということがまず可能かどうかを考える必要があるでしょう。いわゆる詰め込み教育とされていることに対しての批判もなされてきていますが、その前に、子どもたちは本当に詰め込まれているのだろうかというのを聞いて直す必要があるでしょう。理解できないことは、短期記憶としてすぐ忘却されていくということは、その人なりに記憶の中でとめておくというような意味を持っているのではないかという風に思うわけ

一方では、語呂合わせで覚えるとか記述で覚えるとか、そういったこともあり得るわけなので、意味が分からないまま、理解を伴わないままの記憶、いわゆる暗記にとどまっているような教育というのは良くはないと思います。そういった教育は、小学校低学年に関わらず、やはりどの段階においても、豊かな学び、質の高い学びとは言えないのではないかという風に思います。やはり、学習内容を納得するとか、その意味や価値をきちんと受け止めながら学ぶということが、豊かな学びになります。詰め込み型の教育というのは、どの段階の学びにおいても望ましいものではないという風に思っています。ただし、短期的に、試験が近

づいていくので、とりえず、覚えておくとかか、そういったことは暫定的には人間が生きていく手段としてあります。そういった短期的な意味においては、詰め込み型で何か覚えておくということも悪くはないと思います。ただし、やはりそれも、小学校低学年というものは、やはりおっしゃる通り早いと思います。なぜかという、例えば、教科書に書いてあることを丸暗記すれば、テストには合格ができる、なぜなら教科書には大事なことが書いてあるからですね。だから、意味がよく理解できない場合があっても、とりえず覚えるということというものは、短期的な方略としてはなくはないと思います。しかしながら、やはり、それは自分の頭で考えているわけではなく、権威とかそういったものに寄りかかっているのです。「教科書に書いてあるのだから、それを見たとけばいいのだから」とか、あるいは、「先生が出した課題なんだから、とりえずやっただけいいんじゃないか」ということになってくるわけですね。そうすると、先ほど言ったように、自分らしい生きがいを見つけていくような豊かな学びにはつながらないわけですね。学校を卒業したら、もう指示を出してくる先生はいないのです。テストももうないのです。そして、もう自分は学ぶ必要はないんだ」という風になってしま

う。学校という間に勉強することを強いられてやらされる勉強の習慣を身に付けてしまうことになって、豊かに学ぶことができなくなるのであれば、それは教育のあり方としては良くはないと思います。とりわけ、小学校低学年の時からとりえず覚えておくべきではないんだというところで、教育者をしてしまおうと、子どもたちも、学ぶことの意味や良さ、学ぶとか、わかるとか、できるとか、そのこと自体に価値があるというのを実感する機会を奪ってしまうことになってしまいます。ですから、その後の人間形成にとってはかなり大きな影響を与えているので、慎重に考えていくことが大切です。つまり、子ども自身が学ぶことの意味

や実感が、感じられるような豊かな学びということを、特に小さなお子さんに提供していくことが大事であると考えます。



**学び合いは「互いの違いに気づくためにある**

**大依** 先生は、子ども相互の関わり合いについて研究されていますが、子どもが相互に関わり合うことにより、子どもたちはどのような学びにつなげられるのでしょうか。

**柴田** まず対話的な学びとかいいますが、今すごく大事にされていることが、学校でもグループワークや学級全体での話し合いを充実させる方向で教育が今動いています。これは、今に始まったことではなくて、学び合う、関わり合うということ、教育にとって非常に大切なことです。ですから、ずっと以前から取り組まれてきていますけれども、さらに、今日では、そういった学び方が、大切にされてきているのです。自分自身も、教室の中で学習者同士の間わりということを、長年研究してきています。それはなぜかという、一つには学びというのは最終的には個人に帰ってくるということが大事だということではあります。最初から一人で学んでいるにはやはり限界があるんですね。例えば、ある物語を読むと、自分が何か感想を持つと思います。人が何かを読んだり見たりして、何かを思うということ、人間らしい非常に大切なことでもあります。しかし、それはあくまでも自分の世界の中に閉じています。同じものを見て、当然ながら他の人とは他のことを感じたり、気づいたりします。それぞれの思いを交換し、自

分の思いと他の人の思いがわかることによって、互いの良さに気づくことができます。そして、自分の良さに気づくことにもなります。関わりながら学ぶことで、他の人と違う、かけがえない自分の思いがあるのだということを考える機会になります。そういうことならすれば、学校というものは、知識を得るだけではなくて、自分の考えを、お互いに出し合うことで学び合う場であると思います。知識を持ち帰るということであれば、インターネットで情報を取ることが、非常に便利になってきています。ですから、学校とかそういったところ以外でも可能になってきています。だからこそ、同じ仲間同士が、自分の考えと意を持ち寄ることによって、お互いの学びを良くしていくということが、これからの学びの中で大事ではないかと思えます。そうした学びをしていく上では、互いの違いを大切にすること、これが、お互いの違いを隠さないこと、私がいかにを隠そうとするのではなくて、それをお互いに出し合うことが大切です。それはお互いに信頼できる人間関係が築かれていなくてはいけないことですので、そういう信頼関係の中で、互いの違いや、あるいは分らない、できないこと、ということを出し合いながら学び合っていくということが、質の高い学びになっていくと考えています。

**ICTは「伝達」だけでなく「交流」を拡張する**

**大依** コロナ禍でICTを活用したオンラインの授業も増えてきています。教育とテクノロジーの可能性についてはどのようにお考えでしょうか。

**柴田** オンライン授業が増えてきているという中で、1つには情報を得るという面でのICTの活用ということがあり、この可能性は非常に大きく、いつでも、どこでも、誰でも、多様なコンテンツにアクセスができるということでは、生涯学習社会を実現する上では、とても大切です。歴史を巡れば、中世から近代に変わった時に教育に大きく影響したものは、印刷技術だと

言われています。印刷技術によって、階級、身分の違いなく、安価に、情報を多くの人々が手にできるようになりました。この印刷技術が、全ての人が、全てのことを学べるようにしていくという近代教育の出発点になっていったわけです。それが発達しながら学校教育制度という形で、何百年か経って、今のようになっているわけですね。今では情報化が押し進められることによって、そこに行かなければ得られないような情報が、いつでも、どこでも、誰でもが得られるようになってきました。情報を伝達するという点から見れば、全ての人が全てのことを学べるようになるという理想に、さらに近づいてきているのだと思います。例えば、海外の大学に留学しなければ受けられなかったような授業が、国内にいながらインターネットで受けられるようになってきている事例があります。空間を超えるという意味では、ICTの活用に大きな期待ができるわけですね。だから、いつでもどこでも誰でも学べるということが非常に、まずは、一つは有効なことだと思います。もう一つの視点で言うと、今はその伝達という視点で話していますが、それは非常に大きな意味があると思います。先ほど、お互いの考えを持ち寄って学ぶ、学び合うことの大切さということをお話ししましたけれども、ICTを使うことによって、それぞれの考えを出し合って、それを交流し合うことも促進されます。これはICTが非常に得意とするところであり、情報交換し合う、交流し合うという点で、期待が持てるという注目しているところでもあります。

**OECDラーニング・コンパスの鍵は「自己決定」と「バランス」**

**大依** 先日、先生からもアドバイスをを受けて世界の最先端の教育枠組みであるOECDのラーニング・コンパスについてご紹介をいただきました。授業で取り入れる場合に、どのように取り組めばよろしいでしょうか。

**柴田** ラーニング・コンパスの考え方で注目すべきところというのは、自分の学び、自分の学びを自分たちで方向づけていく、まさにコンパスを持ってどちらの方向に向かっていくかということと歩んでいく、その自己決定ということがすごく大事だと思います。もちろん子どもたちは、大人が考えたレールの中で安心して学ばせるという場面というのは、これは必ず必要です。いきなりどこにどんなものがあるかわからない子どもたちに、「はい、もう自分で学びたいこと学びなさい」、「この図書館にはたくさんの本があるから、もう好きに読めばいいから」というのは、いかに見れば、全ての人々が全てのことを学べるようになるという理想に、さらに近づいてきているのだと思います。例えば、海外の大学に留学しなければ受けられなかったような授業が、国内にいながらインターネットで受けられるようになってきている事例があります。空間を超えるという意味では、ICTの活用に大きな期待ができるわけですね。だから、いつでもどこでも誰でも学べるということが非常に、まずは、一つは有効なことだと思います。もう一つの視点で言うと、今はその伝達という視点で話していますが、それは非常に大きな意味があると思います。先ほど、お互いの考えを持ち寄って学ぶ、学び合うことの大切さということをお話ししましたけれども、ICTを使うことによって、それぞれの考えを出し合って、それを交流し合うことも促進されます。これはICTが非常に得意とするところであり、情報交換し合う、交流し合うという点で、期待が持てるという注目しているところでもあります。

ら学ぶことや、学んだことをより良い社会の実現のために生かしていくという社会性も大切になります。すなわち、学び手としての責任をもち、自分の学びをより良くしていくことによって、お互いに思いやりを持ちながらより良い社会を築いていくことに貢献しようという意志をもつことを大切にしたいと考えています。そのためには、自分で考える機会、自分で決める機会、そして、最後まで自分でやり抜く機会、さらには自ら他人に助けを求め教えるを請う力、そういった力も大事になってきます。自分の学びを自分で良くしていくということですね。そういった機会を増やしていくことが大事だと思います。学ぶということは、生きるための手段でありながらも、より学ぶということも、まさに、その人らしく、個性を持った人間として生きていくということです。だから、自分らしい学びということは、自分らしく生きていくということになります。学ぶということの中に、学ぶことの良い点があるんですね。ですから、何か実用的に使われるとか、それによって報酬が得られるとかだけではないで、学ぶこと自体の価値、何かがある、何かができるようになるということ、端的に言えば、学ぶこと、学ぶことの意味だということですね。その意味を一人ひとりの子どもたちに、学ぶ意味が実感できるような教育というのは、これからの教育にとってすごく大切ではないかと思えます。先ほど話したような、これからAIが発達する社会の中で、人間がどこで生きがいを感じ、自分らしきを感じて、自分らしく生きていくのかということですね。よりよく学ぶというところが、この課題につながっていくわけですね。生涯にわたって、自分がより良く生きていくために、よりよく学んでいくこと、これが、きちんと位置づけていくようにしていきたいものです。子ども自身が、自分で考え、自分で選び、自分でより良くしていくことというように、学ぶを大切にしていきたいと思えます。



**結局、教育が守りたいものは何か**

**大依** 最後に、これからの教育に対するメッセージをいただけますでしょうか。

**柴田** 学ぶということは、学ぶということ自体に価値があるんですね。

何か分るようになる、何かができるようになるという自体に価値があります。もちろん目標を持って学んで、ある大人に入りたからそこに向けて学ぶとか、ある資格を取りたいからその資格に向けて学ぶとか、これも大切な学びには違いないんですけど、それは学んだ結果として何か得られるということが目的です。つまり、学んだ結果が何かに変換できるという意味での価値、すなわち交換価値です。それから、あるいは自分が何か学んだこと、例えば学んだ技術などを使って、何か製品を作るとか、問題を解決するとかということもありません。何か、それを学んだことが、何かに使うことができる。使用することができるという使用価値です。そのような、交換したり、使用したりできるということも、もちろん価値なんですけれども、学ぶということは、それ自体に価値があるんですね。わからないことがわかる、まさに、知的好奇心に基づいて学ぶということの中に、学ぶことの良い点があるんですね。ですから、何か実用的に使われるとか、それによって報酬が得られるとかだけではないで、学ぶこと自体の価値、何かがある、何かができるようになるということ、端的に言えば、学ぶこと、学ぶことの意味だということですね。その意味を一人ひとりの子どもたちに、学ぶ意味が実感できるような教育というのは、これからの教育にとってすごく大切ではないかと思えます。先ほど話したような、これからAIが発達する社会の中で、人間がどこで生きがいを感じ、自分らしきを感じて、自分らしく生きていくのかということですね。よりよく学ぶというところが、この課題につながっていくわけですね。生涯にわたって、自分がより良く生きていくために、よりよく学んでいくこと、これが、きちんと位置づけていくようにしていきたいものです。子ども自身が、自分で考え、自分で選び、自分でより良くしていくことというように、学ぶを大切にしていきたいと思えます。